

ITU 無線通信諮問委員会

第 20 回会合報告書（案）

- 【会合名】 ITU 無線通信諮問委員会第 20 回会合
- 【会期】 2013 年 5 月 21 日～24 日（ただし、21 日は非公式の情報会議）
- 【開催場所】 スイス・ジュネーブ ITU 本部
- 【概要】

無線通信諮問委員会（Radiocommunication Advisory Group、RAG）は、ITU 条約第 11A 条に規定された会合であり、世界無線通信会議（WRC）の準備や無線通信総会（RA）、ITU-R 研究委員会（Study Group）に関する作業、優先度、財政的事項等について検討し、その結果を無線通信局長に提示することを任務としている。

RAG 会合は通常年 1 回開催されており、今回の会合は、2013 年 5 月 22 日～24 日の 3 日間の日程で ITU 本部（ジュネーブ）において開催された。また、5 月 21 日には戦略計画および運用計画の説明のための非公式会合を開催した。出席者は、27 か国及び欧州電気通信標準化機構（ETSI）、欧州宇宙機関（ESA）、レバノン電気通信規制庁、オマーン電気通信規制庁等の 8 組織から 90 名であり、我が国からは、総務省、日本放送協会、NTT ドコモ、KDDI、日本 ITU 協会から 5 名が出席した。

本会合の主な審議結果は以下の通り。

- ・ 現職の議長（グワンドゥ氏：ナイジェリア）が継続できなくなったとナイジェリア政府から通知があったことから、8 名の副議長の中から新議長を選出することになった。議長として唯一ケニア政府から推薦されていたダニエル・オバム氏（ケニア）を異論なく承認した。
- ・ 2015 年予算案に WRC-15 の開催経費（500 万スイスフラン）が計上されておらず、WRC を 2015 年に開催するためには、引当金口座からの引き出しが必要と BR が説明したことから議論を呼んだが、予算は理事会の審議事項として、BR 作成案のまま理事会へ送られることになった。理事会で引当金口座からの引き出しが認められない場合、次回 WRC は 2016 年に開催される見込み。仮に 2016 年に開催されることになった場合、WRC-12 と同様に年明けの開催について期待が出席者から述べられたが、BR は夏になるだろうとコメントした。
- ・ 2016-2019 年戦略計画においては、引き続き、（1）無線通信システムの干渉のない運用の保証、（2）無線通信システムの所要の役割と品質を保証する勧告の確立、（3）周波数と衛星軌道の合理的、公正的、効率的、経済的利用と将来の技術開発の推進、を目標に掲げ、WRC を ITU-R 活動の中心に置くこととした。そして、目標達成のために、ITU-R プロセスとして、（イ）周波数と衛星軌道に関する国際的規則の確立と改正、（ロ）周波数と衛星軌道に関する国際的規則の施行、（ハ）周波数と衛星軌道の効率的な利用のための世界的な勧告、報告書、ハンドブックの作成、（ニ）無線通信に関する ITU-R 加盟員への周知と支援を行うことを定めた。

- ・ 運用計画については、特に変更なく事務局案を承認した。
- ・ ITU の出版担当から無線通信規則のダウンロードの無料化についての影響について報告があった。収入源による財政的影響については、ほとんどなく、むしろ売り上げが増加したことから、規則へのアクセスやプレゼンス向上に役立つとの結論に至った。BR に対し、ダウンロードの量的分析を引き続き行うことを招請した。
- ・ 前回の RAG でも審議された3つの周波数管理ハンドブックの無料化に関しても財政的影響について検討し、費用便益評価が良好であったことから、無料化を実施するよう BR 局長に要請した。
- ・ BR が寄与文書を受け取った場合、規定フォーマット化等の措置を行わず“as received”としてアップロードすることになっているが、さらに迅速化するため、予め適切な権威を付与したうえで寄与文書提出者が直接アップロードする仕組みを検討していることに留意した。
- ・ 前回 RAG において、勧告を周波数ごとに検索できるデータベースを構築することが招請されており、進捗について BR から報告があった。RAG は、各研究委員会(SG)に対し、それぞれが担当する勧告のサービスや周波数について検討を行い BR に助言し、さらに勧告を分類化するためのシステムやアプリケーションのリストを作ることを招請した。また BR は引き続き ITU-R 勧告のデータベースを整備し、無線通信規則に参照されている勧告を示す欄を含める改修を行う。
- ・ セクター間ラポーターグループ(IRG)は、ITU-T 決議 18 のアネックス C に規定されていること、相当する ITU-R 決議 6 は、承認が延期されていることに留意した。ひとまず、ITU-R SG 6 と ITU-T SG 9 の間でオーディオ・ビジュアルアセスメントに関する共同研究や ITU-R SG 6 と ITU-T SG 12 の間でオーディオ・ビジュアルメタデータに関する共同研究のグループが創設される見込み。
- ・ RAG は、語彙の定義を検討している ITU-R の CCV と ITU-T の CCV が共同で検討を行うことを支持した。
- ・ RAG は、WRC-12 で周波数分配表の最低周波数を 9 kHz から 8.3 kHz に引き下げたことについて、ITU-T に通知する韓国提案について、TSAG にリエゾン文書を送付することを承認した。
- ・ 先の RA-12 において ITU-R 決議 62 が策定され、前回の RAG において無線設備の適合性評価と相互運用性試験について ITU-R が果たす役割について長時間議論されたが、今回の RAG では、TSB が委託して外部コンサルタントが検討している事前評価の結果を待ってから再度議論するという BR 提案に異論が出なかった。
- ・ 次回 RAG (第 21 回) 会合は、2014 年 6 月 24 日 (火) ~27 日 (金) にジュネーブで開催予定。また、6 月 25 日 (水) を全権委員会議の準備と運用計画等を議論する時間に充てる。

内容

0. はじめに	3
1. 開会	3
1.1 議長選出	3
1.2 開会挨拶	3
2. 理事会関連事項	3
2.1 衛星ファイリングのコストリカバリー、ユニドロワ等	3
2.2 出版事業関係	4
2.3 予算関係	4
2.4 適合性と相互運用性	5
3. WRC-12 の結果と WRC-15 の準備	5
4. 研究委員会(SG)活動	6
5. 戦略計画および運営計画	7
6. 情報と支援	8
7. 加盟員に関する統計	8
8. 勧告のデータベース	8
9. RAG コレスポネンスグループ(CG)の活動	9
9.1 電子的作業方法(EDH: ELECTRONIC DOCUMENT HANDLING)	9
9.2 勧告フォーマット	9
9.3 決議1-6の改訂	9
9.4 決議6-1の改訂	9
10. WTSA-12 の結果	10
11. BR 情報システム	10
12. 宇宙監視	10
13. BR IFIC の新機能	10
14. 次回の RAG 会合の予定開会	11
15. その他	11
15.1 ITU 歴史ポータルサイト	11
15.2 顧客管理	11
入力文書および出力文書一覧	12

0. はじめに

2013 年無線通信諮問委員会（RAG）会合は、2013 年 5 月 22 日から 24 日の 3 日間の日程で ITU 本部（ジュネーブ）において開催された。また、5 月 21 日には、戦略計画および運用計画の説明のための非公式会合を開催した。出席者は、27 か国及び欧州電気通信標準化機構（ETSI）、欧州宇宙機関（ESA）、レバノン電気通信規制庁、オマーン電気通信規制庁等の 8 組織から 90 名であり、我が国からは、総務省、日本放送協会、NTT ドコモ、KDDI、日本 ITU 協会から 5 名が出席した。

1. 開会

1.1 議長選出

現職の議長（グワンドゥ氏：ナイジェリア）が継続できなくなったとナイジェリア政府から通知があったことから、8 名の副議長の中から新議長を選出することになった。議長として唯一ケニア政府から推薦されていたダニエル・オバム氏（ケニア）を異論なく承認した。

1.2 開会挨拶

トゥーレ事務総局長が開会と歓迎の挨拶を行った。まず、IFRB の元議長のベラーダ氏（モロッコ）と CEPT 代表を務めたボンド氏（英国）の逝去に出席者全員で黙祷を捧げた。また、ランシー局長が手術と治療から職務に完全に復帰したとの説明があった。

IMT やインターネットの普及で ICT の役割が増加しているとし、ITU が発展の鍵を担っていることを強調した。また、ICT が各国の重要政策課題になっており、持続可能な発展が必要とされていると述べた。特にワイヤレス分野の政策が重要であるとした。

また、先週開催された WSIS フォーラムおよび第 5 回 World Telecommunication Policy Forum (WTPF)の結果について、5 月 13～17 日にかけて開催された WSIS フォーラムでは、60 人以上の大臣など各国の要人が出席し討議を重ねたこと、同月 14 日～16 日に開始された第 5 回 WTPF においては、インターネット政策に関する 6 つのオピニオンを満場一致で採択されたことなどを報告した。

ランシー BR 局長が歓迎の挨拶を行った。まず、3 月の入院中に多数のお見舞いや激励の言葉を受けたことに感謝した。また、RAG への入力寄与文書に謝意を表明し、WRC-15 の準備が始まっていること、情報周知の改善やソフトウェアの開発も進めていること、戦略計画など 2014 年全権委員会議の準備も進めていること、フェローシップがあっても ITU-R 活動への参加が増えていないことなどを報告した。

2. 理事会関連事項

2.1 衛星ファイリングのコストリカバリー、ユニドロワ等

入力文書 Doc./1 (§ 2) (BR)

アンリ衛星業務部長が、衛星ファイリングのコストリカバリーに関し、WRC決議555に従い、コストリカバリーを免除した手続き規則（Rules of Procedure）を改正し、RRBで承認を得たと説明した。また、スペースプロトコルについて、ITUが宇宙資産の監督機関に就任することについて興味を有していることを表明することについて、2012年理事会で承認を得たと説明した。

ナイジェリアが、スペースプロトコルの項に記載されている私法統一国際協会（UNIDROIT）の準備委員会の会合（於：ローマ）の結果について説明を求めた。これに対し、イタリアから説明があり、米、ロシア、フランス、ドイツ、カナダなどの参加（日本は言及なし）を得て開催した。会議の結果、作業グループを2つ設置したことが説明された。一つは、レジストリに関する検討を行い、もう一つのグループは、レジストリの管理方法や管理者に関する検討を行う。前者のWG1は、ブルーキン氏（ロシア）が、後者のWG2は、シュミテック氏（ドイツ）が議長を務める。引き続き、レジストリに関する検討を行い、本年9月にドラフト第1版を作成し、レジストリの管理者は2014年以降に決めるスケジュールが組まれているとのこと。

2.2 出版事業関係

BRが無料ダウンロードの伸びが顕しいと報告した。無料ダウンロード化の書籍とDVDの売り上げへの影響を注視しているが、無線通信規則などに興味を持つ人が増えて、書籍やDVDの売り上げも増える傾向にあるようだとの説明があった。

これに対し、ブラジルは情報提供の多様化がITU-Rの認知度を向上に寄与していると、ダウンロードした人のプロフィールを分析し、よりよいサービス提供をすべきと意見した。スウェーデンは、アクセスの無料化でITUの活動実績を展開することが可能になるとし、他の義務的文書やハンドブックの無料化の可能性も検討すべきと意見した。他方、イランは、無料でないITUが無視されるわけではないとし、書籍類の売上の増減ではなく、財務面に悪い影響が無いことを確認すべきと意見した。レイテBR次長から、財務面の影響は検討中とコメントがあった。

2.3 予算関係

イジェBR職員がコスト削減を努力していること、2010年全権委員会議において、WRC-15の費用は承認されていないため、この会議費用（500万スイスフラン）は2015年予算に計上されていないことを説明した。これに対し、米国は、WRC-15とRA-15の開催費用の確保について、理事会に寄与文書を入力すると表明した。ロシアは、2012年理事会で開催が承認されたWRCの費用が含まれていないことが誤りと意見した。議論になったが、最後は予算に関する事項は、理事会の所掌ということで、議論が打ち切られた。

セミナーの費用が2012年の決算が17万7000フランであることに対し、2014-2015年予算が104万4000スイスフラン計上されていることについて、ロシアが説明を求めたが、セミナーの費用は、更新した予算の額が別の資料に記載されているので、別途説明するとした。レイテ次長が、今年は、3つの地域セミナーの開催を予定していることを説明した。

マラグチ BR カウンセラーが、2.4 適合性と相互運用性について説明した。特に意見なく議事録にノートすることとした。

2.4 適合性と相互運用性

先の RA-12 において ITU-R 決議 62 が策定され、前回の RAG において無線設備の適合性評価と相互運用性試験について ITU-R が果たす役割について長時間議論されたが、今回の RAG では、ITU 電気通信標準化局 (TSB) が委託して外部コンサルタントが検討している事前評価の結果を待ってから再度議論するという BR 提案に異論が出なかった。

3. WRC-12 の結果と WRC-15 の準備

入力文書 Doc./1(\$2.1, \$3.2, \$5) (BR) , 3 (韓国), 5 (米国)

レイテ BR 次長が、WRC-12 の結果概要について説明した。オビノーBR カウンセラーが、WRC-12 決定の実施とともに、RA-15 が 2015 年 10 月 26 日～30 日にかけて開催される予定であること、WRC-15 の議題、WRC-15 が 2015 年 11 月 2 日～27 日にジュネーブで開催する予定であることなどを説明した。カナダが、WRC が 2016 年になった場合を考慮しておく必要もあると指摘し、BR が、2016 年になった場合の時期は正確な情報はないが、7 月中旬から 8 月中旬ではないかと応えたが、ロシアは、WRC の開催時期は、理事会決議 1343 で決めたはずであるのかかわらず、2016 年に延期する議論を RAG で行うことは権限外で不適切であると意見し、次回 WRC に関する議論は打ち切られた。

第一回の WRC 準備会合 (CPM-1) については、WRC の後の CPM-1 の開催時期について議論があったが、ロシアが 2014 年の RAG で議論すればよいことと意見し、本件議論は終了した。

ロシアは、WRC 決定の実施のための一般行動に関し、回章 CR/343 “Implementation of provisions relating to the bringing into use and suspension of a frequency assignment to a space station in the geostationary-satellite orbit” (衛星の実際の運用を確認するための詳細なデータの提出を要請したもの) の施行は正当性に乏しく、同意は難しいので、このコメントを議長報告書に記載して欲しいと意見し、議長が受け入れた。また、米国は、Doc.5 に基づき、回章 CR/343 の策定にかかる BR による情報開示や透明性が不十分であることから、本件について、議長報告書用のテキストを提供したいと提案し、受け入れられた。BR は本件を RRB に報告することになった。

オビノーBR カウンセラーが WRC-15 の準備状況として、CPM 管理チームの会合が来年 9 月 1 日～5 日まで開催されること、特別委員会作業部会(SC-WP)が本年 12 月に、特別委員会(SC)が 2014 年第四四半期にそれぞれ開催されることを説明した。

韓国が Doc.3 に基づき、分配表の周波数下限を 8.3kHz としたことを ITU-T と情報共有すべきと提案した。基本的に参加者から支持を受け、BR から TSAG にリエゾンとして送付することとした。

4. 研究委員会 (SG) 活動

入力文書 Doc./1(Add.1§ 1, Add.1 § 2, Add.1§ 3, Add.1 § 4, Add.1 § 5, Add.1 § 6) (BR) , 2 (SG 5 議長), 4(韓国), 10(BR), 7 (SG 7 議長), 8 (SG 1 議長),11 (ブラジル), 12 (SG 6 議長), 16 (BR), 19 (SG 6 議長), 20 (CCV)

BR が作成した決議 1-6 に基づく作業ガイドライン改定案 (Doc. 10) について、BR が寄与文書を受け取った場合、規定フォーマット化等の措置を行わず“as received”としてアップロードすることになっているが、さらに迅速化するため、予め適切な権威を付与したうえで寄与文書提出者が直接アップロードする仕組みを検討していることに留意することとした。

イランの発言を受け、ITU 憲章第 13 条に従い、無線通信総会の決定は ITU 憲章、条約および無線通信規則に適合しなければならないことに留意することとした。

BR が他のセクター（特に事務総局）の会議が増加していることから、ITU の会議を確保できず、CCV の会議室も改修で確保できないことから、ジュネーブ外での会議開催が必要となっていると説明したことに対し、イランがジュネーブ以外での開催における遠隔参加の義務化を要請した。これを受け、BR 局長が遠隔参加のための会議開催の最低条件を定めたガイドラインを改善するよう RAG が招請することとした。

無線通信規則から参照されている勧告を識別できるようにするブラジル提案 (Doc.11) については、BR が引き続き ITU-R 勧告のデータベースを整備し、参照されている勧告を示す欄を含める改修を行う。

前回 RAG において、勧告を周波数ごとに検索できるデータベースを構築することが招請されており、その進捗について BR から報告があった。RAG は、各研究委員会(SG) に対し、それぞれが担当する勧告の無線業務や周波数帯について検討を行い BR に助言した。さらに、SA および RS シリーズ勧告を検討した結果、SA シリーズ勧告は、無線業務、アプリケーション、周波数帯による分類が可能との寄与文書 (Doc.7) を受け、勧告を分類するためのシステムやアプリケーションのリストを作ることを招請した。

セクター間ラポータグループ(IRG)は、ITU-T 決議 18 の ANNEX C に規定されていること、相当する ITU-R 決議 6 は、承認が延期されていることに留意した。ひとまず、ITU-R SG 6 と ITU-T SG 9 の間でオーディオ・ビジュアルアセスメントに関する共同研究や ITU-R SG 6 と ITU-T SG 12 の間でオーディオ・ビジュアルメタデータに関する共同研究のグループが創設される見込みである。RAG は、語彙の定義を検討している ITU-R の CCV と ITU-T CCV が共同で検討を行うことを支持した。

韓国が提案した作業方法のガイドラインの更新、寄書や勧告のテンプレートおよび作業方法ガイドラインなどのウェブサイトへの掲載 (Doc. 4) はロシアの支持を受け、BR が実施することとした。

Doc. 1 (Add.1 § 5)に基づき、BR から各 SG の特筆すべき活動について紹介された。概要は以下のとおり。

- SG 1 RFID、電力線搬送通信（PLT）、電波監視など。
- SG 3 Bullington 回折法の導入、地上伝搬モデルの新勧告など。
- SG 4 無線航行衛星業務の地球局/衛星局の特性の新勧告、IMT-Advanced の衛星コンポーネントの研究など。
- SG 5 自動車レーダーに関するワークショップ、WRC-15 議題 1.18、IMT 技術進展に関するワークショップなど。
- SG 6 3DTV や UHDTV に関する勧告、JTG 4-5-6-7 への対応、デジタルテレビジョン研究 40 周年など。
- SG 7 科学業務に関するセミナー開催など。

SG 1 カウンセラー（Doc.8）、SG 5 議長（Doc.2）、SG 6 議長（Doc.19）から、それぞれの寄与文書に従って、ITU-R 決議に基づく SG 活動状況の報告が行われ、引き続き RAG で活動報告を行うことを RAG が認めた。また、SG 4 カウンセラーから、決議 47-2 に関して勧告 M.1850-1、決議 53-1 および 55-1 に関して 2 つの勧告と 2 つの報告書を承認したこと、放送衛星による災害軽減の研究課題を作成したこと。IMT-Advanced の衛星コンポーネントの無線インタフェースの勧告を完成予定であることが口頭で紹介された。

ニュース素材伝送（ENG）に関する ITU-R 決議 59 について、ANATEL が ENG ユーザ向けの報告書をまとめたので、ITU のウェブページからリンクを張ることをブラジルが求めたことに対して進捗を留意し、活動の継続を奨励するとともに、BR 局長に対し ENG 周波数に関するウェブサイト作成を促した。

5. 戦略計画および運営計画

入力文書 Doc./1(\$ 8)(BR)、13+Add.1(戦略計画 CG)、15 (米国)、17 (フランス)、TEMP/1

ナルバンディアン氏（アルメニア）が 5 月 21 日に非公式な情報提供会議との位置づけで開催された戦略計画、運用計画の説明会の結果を報告した。戦略計画は、米国、フランスからの入力文書と本件 CG 議長を務めたアラステ氏によるコメントに基づき議論した。また、ラワット氏（カナダ）によるドラフティンググループを設置し、改定案の作成を行った。

現在の戦略計画の出力が WRC、RA などの会合になっていることから、これらは BR の出力であるので、ITU-R の出力になるように修正されなければならないという意見が米国、フランスなどから表明された。これを受けて、“objective” と “goal” が混在しているものを “objective” に統一するとともに、ITU-R プロセスを新たに定義した。

この結果、2016-2019 年戦略計画においては、引き続き、（１）無線通信システムの干渉のない運用の保証、（２）無線通信システムの所要の役割と品質を保証する勧告の確立、（３）周波数と衛星軌道の合理的、公正的、効率的、経済的利用と将来の技術開発の推進、を目標に掲げ、WRC を ITU-R 活動の中心に置くこととした。そして、目標達成のために、ITU-R プロセスとして、（イ）周波数と衛星軌道に関する国際的規則の確立と改正、（ロ）周波数と衛星軌道に関する国際的規則の施行、（ハ）周波数と衛星軌道の効率的な利用のための世界的な勧告、報告書、ハンドブックの作成、（ニ）無線通信に関する ITU-R 加盟員への周知と支援を行うことを定めた。

運用計画については、特に変更なく事務局案を承認した。

6. 情報と支援

入力文書 Doc./1(\$ 9+Add.2)(BR)

BR が 2013 年に実施予定の地域無線通信セミナーの予定を説明した。アメリカ地域は、7 月 8 日～12 日までパラグアイ・アスンシオンで、アフリカ地域は 9 月の最終週にカメルーン・ヤウンデで、アジア太平洋地域は 11 月末から 12 月初めに計画中、東欧地域は 9 月末にそれぞれ開催予定。

また、イランなどの意見を受け、無線通信規則の実施を超える地域参加国の関心のある議題を選定し、それぞれの地域のアプローチに調和を持たせるためにも計画段階及び実施段階において、地域機関と積極的に連携するように RAG が意見することとした。また、詳細な財政的分析を行うとともに、電気通信開発局（BDT）のイベントとの調整を追及することを BR に求めた。

7. 加盟員に関する統計

入力文書 Doc./1(\$11+Add.3)(BR)

BR が、ITU-R 加盟員の状況について、加盟員数は維持されており、新しい加盟員を勧誘中であるとのことを報告した。カナダが理事会にて、NGO や規制機関など新しい加盟員のカテゴリーを検討していることを紹介し、RAG でもアカデミアの参加を議論すべきと意見した。また、ITU-R は規制を扱うことから、アカデミアの権限が限定されがちであるとの指摘があった。これに対し、レイテ次長からアカデミアに関する制限は、セクターに依存しないようにすべきと意見した。

なお、日本の ITU-R 加盟員に関する記述として、パナソニック・モバイル・コミュニケーションのセクターメンバーからの脱退、京都大学のアカデミアとしての加盟が報告されている。

8. 勧告のデータベース

入力文書 Doc./1(Add.1\$3.7)(BR), 16 (BR)

ラングトリ-BR 研究委員会部長が、勧告のデータベースと検索機能を整備しているなどの研究委員会部の活動状況を報告した。また、データベースの検索のデモを実施し、フィードバックやコメントをもらいたいと要望があった。ナイジェリアから改訂もわかるとよいと意見があったが、バージョンの履歴については、現行の有効な改訂のみを対象とする。全ての履歴をフォローするのは難しいとの説明があった

9. RAG コレスポネンスグループ (CG) の活動

9.1 電子的作業方法 (EDH: Electronic Document Handling)

入力文書 Doc./6 (CG 議長)

コスタ CG 議長が、CG 活動の結果として、会合参加登録や寄書入力方法の改善、ソフトウェアツールの取扱説明、リモート参加のためのユーザガイドの開発、ウェブサイトの移行やデザイン変更時のハイパーリンクの破損、電子メールによる回章配布、パーソナルウェブサイトの廃止、などについて説明した。ロシアがウェブページにおける全ての公式言語への平等なアクセスを求めた。

フランスから紙による回章の配布が続いていることについて確認があり、この発言を契機に、回章は今後原則として電子的な配布とし、希望により紙で配布する方法とすることを RAG は提案することとした。BR 局長が引き続き検討することとなった。

9.2 勧告フォーマット

入力文書 Doc./14 (CG 議長)

ナルバンディアン CG 議長が新たな勧告フォーマット案について説明した。RR の Appendix と混同することから、勧告では Annex の更に付属資料として Appendix は用いず Attachment という言葉を使用することとした。

9.3 決議 1 – 6 の改訂

入力文書 Doc./18 (フランス)

CG 議長から特に入力はなかったが、決議 2、決議 36、決議 38 を決議 1 にまとめること、RAG に関する規定を決議 1 に含めること、決議 15 を決議 1 に統合することなどを提案する文書をフランスが提案した。これに対し、ロシアが改定の影響について注意深い検討が必要とし、フランス提案を支持する部分はあるものの、決議 15 を含めることは不相当と意見した。他の国もフランスを支持するものや慎重に検討を要するなど意見したが、現職の CG 議長が活動を継続できないことから、ヴァレ氏 (フランス) を新たな議長として活動を継続することとした。

9.4 決議 6 – 1 の改訂

入力文書 Doc./9 (CG 議長)

ザッカリアン CG 議長より、コメントがなかったことが報告された。カナダが、WTSA は決議 18 を改定し、新 ANNEX C にセクター間ラポーターグループ (IRG) の手続きを規定していることから、混乱を避けるため、同一の文書を使用すべきと主張した。これを受け

て、決議 6 と ITU-T 決議 18 が完全に一致しているか BR が次回 RAG までに検討して報告することとした。

10. WTSA-12 の結果

入力文書 Doc. 1 (§ 4.1)(BR)

ジャムシ電気通信標準化局 (TSB) 研究委員会部長が 2012 年 11 月に開催された WTSA-12 の結果について説明した。6 つの新勧告 (software defined networking, e-health, e-waste, academia など) の承認と 50 の決議改定を行うとともに、WTSA-12 と同時に世界標準化シンポジウム (Global standards symposium) を開催したとの内容であった。

フランスがアカデミアに関する WTSA 決議 80 に関して、ITU-R でも重要であることから、電気通信標準化諮問委員会 (TSAG) に知見を提供するようお願いしたいとの意見があり、次回 RAG で継続的に検討することとした。

11. BR 情報システム

入力文書 Doc. 1 (§ 6)(BR)

BR がフェーズ 1 (2012 年 12 月末までに WRC-12 決定を実施)、フェーズ 2 (2015 年 12 月末までにいくつかの既存ソフトウェアの書き直し)、フェーズ 3 (2016 年 1 月から 2018 年末までに共通枠組み、セキュリティシステム、集中処理された宇宙データベースを実施するプロジェクトチームの立ち上げ) の 3 つのフェーズで実施していることを報告した。

12. 宇宙監視

入力文書 Doc. 1 (§ 7)(BR)

BR は有害な衛星干渉の解消を目的として、監視設備を持つ機関と覚え書きを交わす計画であることを説明した。国際民間航空機関 (ICAO) との間の覚え書きは締結済みであり、その他の機関とも締結する予定。情報共有のためにワークショップの開催を計画している。

ロシア、イランが、重要な課題であると指摘し、BR への財政的な影響を考慮すべき、無線通信規則の範囲を超えてはならないなどと意見したことに対し、BR 局長は、ITU は技術的組織であり、宇宙監視は費用がかかる活動であることから、既存の監視設備を活用して宇宙監視ができれば効率の良い解決策であると応じた。これに対し、イランをはじめエジプト、ブルガリアなどから、収集した情報の厳重な管理を求めるなど慎重に本件を進めることを要請する意見が述べられたことから、BR は注意して対応することを約束した。

13. BR IFIC の新機能

入力文書 Doc. 1 (§ 10)(BR)

BR が、IFIC の地上系のソフトウェアとデータベースを更新した決定について説明した。ロシアから地上と宇宙の2つのバージョンがあるので、これを一つに統合して欲しいと意見が出たことに対し、レイテ BR 次長が要望を考慮すると回答した。

14. 次回の RAG 会合の予定開会

次回 RAG（第 21 回）会合は、2014 年 6 月 24 日（火）～27 日（金）にジュネーブで開催予定。また、6 月 25 日（水）を全権委員会議の準備と運用計画等を議論する時間に充てる予定。

15. その他

15.1 ITU 歴史ポータルサイト

クララ ITU 事務総局職員が、ITU の歴史および過去の憲章・条約などのまとめた歴史ポータルサイトを設置したことを説明した。

15.2 顧客管理

ヴラチョス ITU 事務総局課長が SAP CRM プロジェクトについて説明し、本プロジェクトへの加盟員からの参加を促した。

入力文書および出力文書一覧

入力文書

文書番号	提出元	表題	
1	Director, BR	Report to the Twentieth Meeting of the Radiocommunication Advisory Group	第 20 回 RAG 会合に向けた報告書
2	Chairman, Study Group 5	Summary of the progress of the studies requested in the ITU-R Resolutions (for information)	ITU-R 決議で要求されている研究の進捗概要
3	Korea (Republic of)	Sharing information with ITU-T on the change of lower bound of frequency allocation table in the Radio Regulations at WRC-12	WRC-12 における RR の低周波数領域の変更に関する ITU-T との情報共有
4	Korea (Republic of)	Proposals to update "Guidelines for the working methods of the Radiocommunication Assembly, the Radiocommunication Study Groups and related groups" and improvement of accessibility of information	RA、SG と関係会合の作業方法のガイドラインを更新する提案と情報へのアクセスの改善
5	United States of America	Implementing the Results of WRC-12	WRC-12 の結果の実施
6	EDH Correspondence Group Coordinator	Progress Report on EDH activities	電子作業方法に関する進捗報告
7	Chairman, SG7	Response to request from RAG related to arrangement of Recommendations	勧告の準備に関する RAG からの要請への回答
8	Chairman, SG1	Summary of the progress of the ITU-R Study Group 1 studies in response to the relevant ITU-R Resolutions	ITU-R 決議に対応する ITU-R SG 1 の進捗概要
9	Chairman, Corresp Group on ITU-R Res 6-1	Report on the work of the Correspondence Group on a revision of ITU-R Resolution 6-1	ITU-R 決議 6-1 の改定に関するコレスポネンスグループの作業報告
10	Director, BR	Update to the Guidelines for the working methods of the Radiocommunication Assembly, the Radiocommunication Study Groups and related groups	RA、SG と関連会合の作業方法のガイドラインの更新
11	Brazil (Federative Republic of)	Proposal for consideration under the new ITU-R Recommendations database	新 ITU-R 勧告データベースに関する考察のための提案
12	Chairman, Study Group 6	Request to RAG regarding proposed inter-sectoral Rapporteur Group	セクター間ラポーターグループに関する RAG への要望
13	Chairman, Strategic Plan Corresp. Group	Draft Report of the RAG Correspondence group on ITU-R Strategic Plan	ITU-R 戦略計画に関する RAG コレスポネンスグループの報告書案
14	Chairman, Corresp Group on the format(s) ITU-R Rec	RAG Correspondence Group on the format(s) ITU-R Recommendations	ITU-R 勧告フォーマットに関する RAG コレスポネンスグループ

文書番号	提出元	表題	
15	United States of America	Views on the Strategic Plan of the ITU-R	ITU-R 戦略計画に関する見解
16	Director, BR	Recommendations database and search facility	勧告データベースと検索設備
17	France	Remarks on the ITU-R Strategic Plan	ITU-R 戦略計画に関する意見
18	France	Items for discussion before revising Resolution ITU-R 1-6	ITU-R 決議 1-6 改定前の討議項目
19	Chairman, Study Group 6	Report of progress in the studies requested in the ITU-R Resolutions (For information)	ITU-R 決議で求められている研究の進捗報告
20	Chairman, CCV	Coordination of ITU-R and ITU-T Committees for Vocabulary activities	語彙に関する ITU-R と ITU-T の委員会の調整
21	Director, BR	Final List of Participants Radiocommunication Advisory Group	最終参加者リスト

出力文書

文書番号	表題		備考 (提出元)
-	SUMMARY OF CONCLUSIONS	結論要旨	RAG 議長